10月16日、忙しい合間を縫って、３年生の執行部６名が校長室に来てくれた。任期は11月末までと聞いているが、体育祭を終え、ホットなうちに彼らの話を聞きたかった▼２限目には、３年生全員によるサプライズ企画があり、３年生一人ひとりから温かい言葉の贈り物をもらったということも聞いた▼わたしが聞きたかったのは、２点。①執行部に対する気持ち②３年生のみんなへの思い。考えのまとまった子からとつとつと話をしてくれた。一人ひとりの思いを尋ねる時、考えをまとめる静寂の時と一人の声に耳を傾ける時が心地よい▼一言では語り尽くせないほどのたくさんの思いが、彼らの脳裏を駆け巡った末に出た言葉は、真言（まこと）▼彼らにとって執行部は憧れだったようだ。憧れは、時にプレッシャーになる。決して自信を持って執行部に入ったわけではない。そして、仲間への感謝を語ってくれた。執行部という仲間への感謝。自分たちを支えてくれた３年生の仲間への感謝への気持ちは、彼らの誠（まこと）▼駆け抜けた１年間だったと思う。憧れから感謝へ。そこには３年生がこれまで日々積み上げてきた真実（まこと）は、もう二度と経験することはできない、価値ある無形の宝物▼「そこに愛はあるんか」は生徒会の目標。裏を返せば、All You Need Is Love（愛こそはすべて）だ。１年間、お疲れさまでした。ありがとう。

081019-42　憧れから感謝へ